

## 2013年度事業報告書概要

### 総括（p3）

- 1 市民活動・NPO支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる基本的な事業（p4～5）
  - (1) 情報提供
  - (2) NPOからの相談・コンサルティング
  - (3) NPO向けの講座
  - (4) まちづくりサロン
  
- 2 地域コミュニティ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業（p5）
  - (1) 地域コミュニティ支援のための情報提供
  
- 3 協働推進（p5～9）
  - (1) 行政との協働
  - (2) 企業との協働
  - (3) 大学との協働
  - (4) びわ卓フォーラム
  
- 4 調査研究事業・政策提案（p10）
  
- 5 災害ボランティアコーディネート事業（p10～11）
  - (1) 「災害支援市民ネットワークしが」の運営
  - (2) 東日本大震災の復興を支援する災害ボランティアコーディネート
  - (3) 菜の花プロジェクトネットワークとの連携
  - (4) 被災地NPO人材支援
  
- 6 ネットワークの構築（p11）
  - (1) 近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度
  - (2) CEO会議への参加
  - (3) 中間支援センター意見交換会への参加
  
- 7 認定取得のための取り組み（p12）
  
- 8 会議等の開催（p12）
  - (1) 総会
  - (2) 理事会

## 2013年度 事業報告書

2013年4月1日～2014年3月31日

### 総 括

2013年度は、2011年度、2012年度と2年間継続実施してきた滋賀県の新しい公共支援事業が終了し、しがNPOセンターが取り組むべき事業についてじっくりと議論、検討、実施へとつなげていく第一歩となった年である。組織内でビジョン共有や中長期目標などについての議論に時間をかけ、活動の基となる中期ビジョンについて検討を行った。中期ビジョンは、今年度はとりまとめには至らなかったが、次年度へ向けて策定の道筋を示すことができた。

また認定取得では、滋賀県内での認定取得啓発という意味も含め先進的に取り組むこととし、7月に申請書を提出し9月に認証を得た。続いて、広く市民に寄付を募りながら実施するに相応しい事業の企画や、それをどう見える化し理解を得ていくかについての議論を徹底的に行った。これについては来年度以降、具体的な事業実施に取り組む。

これまでの相談事業は、新しい公共支援事業のメニューである専門家派遣事業の枠内で実施し、費用は委託事業費で賄ってきた。新しい公共支援事業は終了したが、中間支援にとって相談事業は欠かせないことから、今年度は独自で有料事業として取り組んだ。相談を有料で受けようとする団体がどのくらいあるかについては未知数であったが、多岐にわたる内容での相談があり、潜在的なニーズはある。ただし、もう少し早く相談に来てくれていればという案件もあり、どのように広報していくかが今後の課題である。

寄付や相談に限らず講座やセミナー、フォーラム、また助成金などの情報をどのように伝えていくかは、事業の成果に大きく関わっている。もともと関心があるという層だけではなく、新しく関心をもってもらいたいと思う層へ働きかけるためには、媒体そのものだけではなく伝え方の工夫が必要である。今後は伝えたい対象にどうすれば届くかに留意した情報発信に努めていきたい。

新しい公共支援事業で設置した「滋賀NPO災害ボランティアネットワーク検討会」では、東日本大震災などの状況を伝えつつ、滋賀県内また近隣で災害が発生した際にどのようなことが可能かについての検討を続けてきた。そして災害発生時の適切な対応のためには、平時からの顔の見えるネットワークが重要であるとの思いが共有されていた。このネットワーク組織を継続させていくために、今年度からしがNPOセンターがネットワークの事務局を担うこととなった。2013年度は研究会とシンポジウムを開催したが、取り組みの中から、参加者の意識を高めながら実践的な活動を加えることによってネットワークが広がっていく可能性が見えてきた。

設立当初から協働推進のための取り組みを積極的に進めてきているが、そのためには仕組みづくりと意識を高めるなど様々な手立てが必要であり、事業を進める中で常にこれを念頭に置いている。受託事業には、協働そのものをテーマとした「草津市職員短期NPO派遣研修事業」「まちづくり相談窓口設置および協働コーディネート業務」があり、この中でじっくりと取り組んだ。しかし協働がテーマではない受託事業でも「夏原グラント運営委託業務」や「SAVE JAPAN プロジェクト」「滋賀大学社会環境教育実習企画協力」など民間や地域の活動団体、大学との協働を進め実施した。「協働推進のため」と自らが積極的に「協働を進める」を両輪として、今後も取り組んでいきたい。

# 1 市民活動・NPO支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる基本的な事業

## (1) 情報提供

サイト、フェイスブックなどで、NPO支援のための情報や、NPOコラムを発信した。  
会員に向けては、メーリングリストなどで情報提供を行った。  
情報発信に関する講座を「NPOアップデート講座」（連続5回講座）の中で実施した。

## (2) NPOからの相談・コンサルティング

相談業務を有料化し実施した。

1時間当たり3,000円（税別、スタッフが出向く場合は交通費別途）

相談件数 7件

- ・ NPO法人の立ち上げについて
- ・ 認定の取得について など

## (3) NPO向けの講座

「NPOアップデート講座」： 基盤強化や組織運営に必要なテーマを設定した。初歩から多様なスキルを持つケースまで、それぞれに応じて柔軟に対応した。

①登記・定款・役員 2013年8月2日

「知らないうちに法令違反かも」 講師：阿部圭宏 参加者：13名

②会計・経理 2013年8月24日

「NPO会計基準」 講師：飯野修 参加者：8名

③情報Ⅰ 2013年9月6日

「何でも聞けるICT情報基礎」 講師：徳永操 参加者：5名

④情報Ⅱ 2013年9月13日

「情報発信がNPOの財源につながる」 講師：仁賀定夫 参加者：10名

⑤協働 2013年9月26日

「協働を進めるための行政とNPOのルール」 講師：阿部圭宏 参加者：5名

「認定取得連続講座」： 認定取得を考えている団体を対象に、具体的・実践的な講座を開催した。

連続5回講座とし、認定申請までのサポートに対応した。講師は5回とも内部で対応した。

受付を団体単位とし、1団体から複数名の参加を可とした。参加団体：9団体

①制度の概要 仮認定、指定NPO法人制度の説明 2013年7月23日

「認定NPO法人制度を知ろう」

②団体の棚卸、チェックリストの確認 2013年7月30日

「認定NPO法人取得に向けた戦略とは」

③書類の作成 2013年8月6日

「認定NPO法人申請の申請書類の作成」

④総会・理事会運営、会計・税務処理、労務、法令順守、登記 2013年8月20日

「認定NPO法人取得に向けた法人運営」

⑤寄付充当事業の開発、寄付獲得のための戦略 2013年8月27日

「認定NPO法人取得後の寄付獲得戦略」

「伝えるコツセミナー」：日本NPOセンターが講師を派遣し、全国で展開している情報発信に関するセミナー。滋賀県開催で応募し、採択され実施した。

「伝えるコツを身につけよう」 2013年12月21日

講師：実吉威 参加者：14名

#### (4) まちづくりサロン

1回目はまちづくりに取り組む現場を訪れ、交流しながら学ぶ機会とした。2回目は座学として今日的なテーマを設定し講師を招き、講演と意見交換を行った。

①まち歩き 2013年11月10日

「大阪上町台地の昭和にタイムトリップする」

講師：奥野修 参加者：7名

②政策談義 2014年2月22日

「地方における若者の新しい生き方とは」

講師：阿部真大 参加者：11名

## 2 地域コミュニティ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業

### (1) 地域コミュニティ支援のための情報提供

地域コミュニティ、特にまちづくり協議会に対する中間支援に必要なメニューを、草津市を事例にとりまとめ、必要な情報をサイトなどで発信した。

## 3 協働推進

### (1) 行政との協働

#### ①草津市まちづくり相談窓口設置および協働コーディネート業務（委託事業）

草津市では本年度、協働のまちづくり条例の整備を行ったほか、協働提案事業についても3年目を迎えている。条例の制定に関するアドバイスや、協働提案事業が円滑にまわるようなコーディネート、また協働への理解のための職員研修の設定を行った。また、市民活動団体の中間支援機能をもつコミュニティ事業団の各事業に対するアドバイスやコーディネートも引き続き行った。本年度は市民活動調査の設計、分析と、まちづくり協議会の支援プログラムの作成をメインの業務とした。

#### <おもなサポート業務>

協働のまちづくり条例検討、まちづくり提案制度への各課ヒアリング・市民提案制度の円滑運用、協働マッチメイキング事業、ひとまちキラリ助成金事業、市民活動相談窓口、まちづくりセンター運用、活動情報冊子の発行、まちづくりポータルサイトの見直し、まち協支援プログラム作成、まちづくり協議会相談対応、コミュニティビジネス講座、市民活動実地調査：設計・分析、事業団職員研修、事業団改革会議、市民活動実務講座・ICT講座開催サポート

全体を年間 720 時間の枠内でスケジュール調整し、2 名で分担して業務を担った。

## ②草津市職員の短期 NPO 派遣研修事業（委託事業）

昨年度、草津市の市民まちづくり提案制度で採択された事業であり、今年度が事業実施となった。

市職員が NPO へ派遣され、現場での体験の中から協働へ向けた具体的な手法を学ぼうというものである。若手 6 人の職員が分野の異なる 3 団体へ派遣された。事前研修・事後研修と実地研修 5 日間のスケジュールである。しが NPO センターでは、事前研修・事後研修の企画運営、派遣先 NPO 団体との連絡調整、実地研修の調整、現地訪問などを行った。

限られた時間と内容の研修ではあったが、派遣された職員から、日常業務の中では決して体験できないことだったと報告があった。今後の職務の中で、何らかの参考になることが期待される。派遣研修は初めての取り組みであるが、草津市は継続していく予定をしている。

- ・派遣先 NPO 法人 NPO 子どもネットワークセンター 天気村  
多文化共生支援センター  
NPO 法人 ディフェンス

## ③若者献血事業（委託事業）

滋賀県の若年層の献血率が低いことを受け、ここにターゲットを絞った献血推進のキャンペーンを 2011 年度から実施しているが、今年度は 2013 年 2 月 14 日に草津駅西口に献血ルームがオープンしたことを受け、主に草津市内でキャンペーンを行った。キャンペーンを 2 年間続けてきた経過から、単独で行うだけでなく、何らかのイベントの中で行うことが効果的であることから、今年度は多様な団体や組織との連携で実施した。

- ・草津市 パワフル交流・市民の日でのブース参加  
2014 年 10 月 25 日 草津市役所・アマカホール
- ・第 2 回商店街クリスマスブーツギャラリー  
2014 年 12 月 21 日 草津 A-SQUARE
- ・滋賀県学生献血推進協議会キャンペーン  
2014 年 2 月 22 日 近江八幡市ピアゴ前駐車場
- ・草津駅前キャンペーン  
2014 年 3 月 29 日 草津駅前東口歩行者専用デッキ

## (2) 企業との協働

### ①環境助成金事業「夏原グラント」（委託事業）

2012 年度から実施している助成金事業の 2 年目として、昨年度同様、助成金団体の募集、選考会運営、実施支援など、また団体からの相談、訪問による活動レポートの作成を行った。スタッフが取材を行った活動レポートは、夏原グラントのサイトにて情報発信を行った。

また、今年度から応募対象範囲を京都（南部）へ広げることとなった。そのため、きょうと NPO センターの協力を得ながら、市民活動支援団体や施設への広報、説明会などを行った。その結果、京都からの応募が全体の 1/3 であった。

2013 年度の助成金対象団体数と助成総額は以下である。新規応募総数は 65 団体であった。

- |       |       |       |             |                 |
|-------|-------|-------|-------------|-----------------|
| ・継続団体 | 15 団体 | 助成金総額 | 4,156,000 円 |                 |
| ・新規団体 | 22 団体 | 助成金総額 | 7,130,000 円 | 合計 11,286,000 円 |

新規採択団体	事業名	助成額
NPO法人 びわこ豊穰の郷	守ろう赤野井湾！オオバナミズキンバイ除去大作戦	500,000
山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	天然更新試験地食害防止活動と植生調査	500,000
おうみこっとな夢つむぎ	「綿づくり」を通して「人の輪」を広げよう	250,000
ウォーターステーション琵琶の会	ウォーターステーション琵琶の会 環境啓発活動事業	250,000
ホテルの学校	みんなで守るホテルと川	150,000
八幡山の景観を良くする会	竹林・コナラ林の整備とナラ枯れ地への植樹で里山再生	400,000
特定非営利活動法人 フロンティア協会	京都の源流域を護る会	300,000
余呉トレイルクラブ	余呉トレイル林道整備事業	380,000
深泥池池畔林研究会	京都市・深泥池における池畔林伐採実験のモニタリング	200,000
特定非営利活動法人ビオトープネットワーク京都	里山再生保全事業（みささぎの森わくわくプロジェクト）	300,000
市民活動支援 レッツ栗東	里山保全及び山林資源の有効利用とその促進事業	250,000
清水山城楽クラブ	里山と遺跡のコラボ（木・愛 LOVE）／清水山城でいくさサイズ	380,000
湖北古民家再生ネットワーク	土から刈り取り土に還す ～茅刈りでつなぐ伝統的自然素材の資源循環再発見プロジェクト～	460,000
しがの里山や川を美しくする会	和邇川流域の環境再生	300,000
久保川と天王山の森を守る会	ドングリの森作り	250,000
天若湖アートプロジェクト実行委員会	あかりがつなぐ記憶 2013 ワークショップ&ドキュメント	320,000
田村山生き物ネットワーク	カスミサンショウウオの保護に向けた生息場所（保護池）設置事業	500,000
特定非営利活動法人 碧いびわ湖	琵琶湖と暮らしのつながりの再生（みんなでつくる！暮らしの体験の場）	420,000
理想の森プロジェクト	鴨川源流の森林環境保全のための 市民参加型森づくりイベントの実施	400,000
NPO法人 瀬田川リパブレ隊	ふるさとの川（大石川）調査隊及び植生調査	200,000
いきもの多様性研究所	京都府和束町における、野性動物との共存を目指す、豊かな森復元モデル事業	240,000
琵琶湖お魚探検隊	環境保全に関する教育啓発、人材育成活動	180,000

継続団体	事業名	助成額
巨木と水源の郷をまもる会	巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくるトチノキプロジェクト	500,000
ニナプロジェクト・ホテルン（カワニナ里親の会）	源氏ホテル「特別天然記念物指定地」の環境（ホテルンロード）整備と浚渫河川へのカワニナの放流事業及びカワニナ養殖水路改修	280,000
琵琶湖博物館 はしかけ 田んぼの生きもの調査グループ	「田んぼのエビ類（大型鰓脚類）」の生息と水田環境	101,000
草津でホテルを楽しむ会	湧水池を活かして、ホテルや生き物を観察できる水辺づくり	120,000
特定非営利活動法人 蒲生野考現倶楽部	佐久良川周辺里地での貴重動植物の持続可能な保護活動の探索	400,000
特定非営利活動法人 妙理の里	ペレットストーブの普及で水源の郷を守る活動	400,000

白鳥川の景観を良くする会	桜並木の整備による憩いの散策路づくり	400,000
彦根雨壺山・護林会	千鳥ヶ岡公園（雨壺山）の荒廃緑地を「里山」に再生	370,000
一般社団法人 kikitō	びわ湖の森の間伐材買取事業	400,000
きぬがさ山「里山に親しむ会」	きぬがさ山系の登山道の整備作業と子供達の里山での自然体験学習	115,000
のとがわエコ水車の会	エコ水車で夜道も明るいまちづくり	100,000
NPO法人 愛のまちエコ倶楽部	里山と里地をつなぐ、地域内循環農業の再構築事業	300,000
特定非営利活動法人 子育て研究会	こんこん山の里山再生と森保全ワークショップ	350,000
環境レイカーズ	子どもたちによる五十年森再生活動	200,000
子ども活動サポーター会	コバノミツバツツジの郷づくり	120,000

年度末には、2014 次年度の継続選考および、新規選考を行った。実施後 3 年目となるため応募団体は「新規」「継続 2 年目」「継続 3 年目」の 3 パターンである。京都へ対象を広げた 2 年目として、対象となる地域の行政関係課などを訪問し、積極的な広報に取り組んだ。

## ②夏原グラント ブラッシュアップ事業（委託事業）

夏原グラントをより充実した制度としていくために必要な取り組みとして実施した。選考委員より、応募団体へのきめ細かな支援が必要との意見を受け、応募前に理解を深めるための「講座」と応募に際しての質問等に直接応える「事前相談会」を開催した。また、しが NPO センターHP のカテゴリであった「夏原グラントサイト」を専用のもにすべきとの意見から、新たに HP サイトを構築した。

### 「ブラッシュアップ講座」

夏原グラントへの応募にあたってぜひ知っておいてほしいこととして、基礎的なことから実践的なことまでを考えてもらうための講座を開催した。内容は、環境保全活動や生き物多様性、応募書類の書き方のポイントで 3 回の開催となった。講師は、いずれも夏原グラントの選考委員に務めていただいた。

#### ・「環境問題のトレンドから考える～市民活動に求められる環境保全活動とは～」

講師：仁連孝昭 2013 年 9 月 24 日 参加者：25 名

#### ・「分かりやすい企画書の書き方」

講師：永井美佳 2013 年 10 月 5 日 参加者：16 名

#### ・生態系にやさしい環境保全とは」

講師：西野麻知子 2013 年 10 月 15 日 参加者：28 名

### 「事前相談会」

夏原グラントへの応募を考えている団体に、個別で相談に応じる場として事前相談会を開催した。事業内容やスケジュールの立て方、予算の組み方など、それぞれの団体の疑問に丁寧に応えた。団体にとっては、時間が十分にある中での個別対応で、応募への励みになったと感じられた。

・米原市 2013 年 10 月 19 日 参加：3 団体

・草津市 2013 年 10 月 22 日 参加：4 団体

・京都市 2013 年 11 月 12 日 参加：5 団体

### 「夏原専用サイト」

今まで夏原グラント関連の情報は、しが NPO センターサイトの 1 カテゴリとして発信してきた。今後夏原グラントを多くの人に PR し継続していくためには、専用サイトが欠かせないことから、新たなサイトを立ち上げた。

外部ヘデザインとサイト構築を依頼し、2013 年 9 月にオープンした。助成団体を訪問した記事の掲載

や助成団体への連絡（事業実施の諸注意や講座の案内等）、応募や報告等に必要な様式のダウンロードなど、基本的な事柄がすべてこのサイトで可能となった。

### ③SAVE JAPAN プロジェクト（委託事業）

損保ジャパンと日本興亜損保がWeb約款\*の利用促進を進める中、ここから生じる差益を活かして全国各地の「いきものが住みやすい環境づくり」を行うプロジェクトである。昨年度に引き続き実施された。しがNPOセンターは滋賀県の支援団体として、損保ジャパン・日本興亜損保、日本NPOセンターと協議しながら県内の環境団体2団体と「希少生物種と自然環境を守ろう」をテーマに、体験型のプログラムを実施した。

このプロジェクトの趣旨には、このようなプログラムに参加する機会がなかった、また今まで環境にあまり関心のなかった層への呼びかけということもあり、PRには多様な媒体を活用した。また、このプロジェクトでは全国的な取り組みとしてサイトでの情報発信が行われており、全国へ滋賀の取り組みを発信するいい機会となった。

- ・「オオムラサキを通して、自然を見つめよう！『オオムラサキ自然観察会』」

環境団体：近江・オオムラサキを守る会 2013年7月7日 参加者：116名

- ・「トンボが群れ飛び、ゲンゴロウが泳ぎ回る里山の水辺を取り戻そう！ ～

環境団体：みなくち子どもの森友の会

その1「ビオトープからのアメリカザリガニ駆除作戦」2013年8月24日 参加者：27名

その2「多くの種類の生きものがすむビオトープをつくろう」2013年10月13日 参加者：19名

### (3) 大学との協働

「滋賀大学社会環境教育実習企画協力」：滋賀大学の社会環境教育実習プログラムの企画に協力するとともに、運営において滋賀のNPOの活動の講義と意見交換を行った。

実施日 8月18日、19日、20日

フィールドワーク：菜の花館 河辺いきものの森 ウッディパル余呉 山門水源の森

### (4) びわ卓フォーラム

2012年度新しい公共支援事業で実施されたのを引き継ぎ、実行委員会を立ち上げ実施した。実行委員会の事務局として、委員会の運営、全体会や分科会の調整、当日の進行管理などを行った。参加者：84名

「時代を超えて一歩進むために びわ卓フォーラム2014」 2014年1月18日

基調講演：「市民社会を担うNPOの自立と役割」

講師：堀江良彰

分科会1：「マルチステークホルダー・プロセスの“しくみ”と持続可能な事業への“しかけ”」

話題提供：押栗泰代、小梶猛

分科会2：「ファンドレーザーが語る資金調達の意義と実践のノウハウ」

話題提供：戸田由美、北田真規、北村正規

分科会3：「ネットで広がるソーシャルグッド～ICTを活用した地域資源の循環」

話題提供：藤澤栄一、仁賀定夫、菱川貞義

分科会4：「いまさら聞けないNPOあれこれ」

進行：阿部圭宏

## 4 調査研究事業・政策提案

NPOを取り巻く環境や課題、また時々の社会的な問題などについて、HPサイトでコラムとして発信した。2013年6月より1か月に1回と不定期分を含めて合計12回リリースした。

## 5 災害ボランティアコーディネート事業

### (1) 「災害支援市民ネットワークしが」の運営

2011年度、2012年度の新しい公共支援事業で設置した「滋賀NPO災害ボランティアネットワーク検討会」の中から、県内のネットワークを立ち上げる機運が高まった、これを受け「災害支援市民ネットワークしが」に関し、しがNPOセンターが事務局を担うこととなった。日常的に顔の見える関係を築いていくことを目標に、緩やかなネットワークとして運営が始まった。

#### 設立総会

参加：21名 2013年4月17日

#### 第1回研究会「滋賀県災害ボランティアセンターについて」

参加：20名 2013年6月27日

#### 第2回研究会「HUGを体験する」

参加：20名 2013年9月10日

#### 臨時研究会「台風18号対応についての情報交換」

参加：12名 2013年10月18日

#### 被災者支援フォーラム「基調講演：子ども・被災者支援法について ほか支援事例について学ぶ」

参加：30名 2013年12月7日

#### 第3回研究会「来年度の活動について」

参加：17名 2014年2月18日

上記のほか、「滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会」への参加、災害VC設置運営マニュアル改訂、滋賀県総合防災訓練など、また「滋賀県内避難者の会」運営サポートを行った。

### (2) 東日本大震災の復興を支援する災害ボランティアコーディネート

大槌あそび場プロジェクト：2012年12月にグッドネーバーズの協力で始まり、その後月1回開催することになった「みんなのあそび場」を、グッドネーバーズの撤退を機に2013年度からは地元駐在4団体が引き継ぐこととなり、メールやフェイスブックを通じての運営相談や、現地へも3度実施協力に行った。

2013年6月30日 旧赤浜小グラウンド、翌日のあそび場ミーティングに参加

2013年10月26日 気仙沼あそびばー体験バス遠足

2013年12月8日 すりきず公園（安渡）滋賀からプレーリーダー2名派遣

### (3) 菜の花プロジェクトネットワークとの連携

2011年度、2012年度と、NPO法人菜の花プロジェクトネットワークと連携して、東日本大震災で被災した地域で菜の花の種蒔きを実施するボランティアバスの運営を担った。今年度は、菜の花プロジェクトネットワークが日本郵政の助成金を得、そのプログラムにあるボランティアバスの運営について委託を受け連携

実施した。

2013年10月13日～17日 参加者：16名

- ・須賀川市と南相馬市 市内圃場で菜の花の種蒔き実施
- ・南相馬市の被災地見学、放射能測定センター南相馬訪問、両市で地元の方々との交流

毎年東近江市愛東コミュニティーセンターで「菜の花学会・楽会」が開催されている。2013年度は須賀川市と南相馬市の小学生・高校生が発表のために招待されていた。菜の花学会・楽会の当日を含め、菜の花プロジェクトに取り組む現地の方々をお迎えするプログラムに協力した。

#### (4) 被災地NPO人材支援

日本NPOセンターと、ワールドビジョンが行っている被災地3県のNPOの人材育成支援にメンターとして関わった。

## 6 ネットワークの構築

### (1) 近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度

近畿ろうきんが2000年度から始めた近畿2府4県内でのNPO・ボランティア活動を促すための制度。2011年度からは東北地方を中心とした被災地での復興支援活動に力を入れている。2013年度についても、東日本大震災発災から2年が経過してはいるものの、なお被災地支援・避難者支援が必要との認識から、引き続きNPO支援機関が行う取り組みへ近畿ろうきんが助成する仕組みとして動いた。

「近畿圏NPO支援センター連絡会議」に出席

2013年5月30日、8月20日、10月31日、2014年1月31日)

「関西における災害支援のためのフレームワーク研究会」に参加

2013年6月15日、8月26日、12月26日

「東日本大震災 支援団体の相談力アップ講座」 2013年12月5日

「3.11 from KANSAI 2014」シンポジウム 2014年3月9日

### (2) CEO会議への参加

全国の民間のNPOセンターが集まるCEO会議へ、夏・秋2回の参加した。特に新しい公共支援事業後の成果と課題、公益法人制度と消費税、認定NPO法人等が議論の中心となった。また、

### (3) 中間支援センター意見交換会への参加

県内の中間支援団体で組織する意見交換会へ参加した

- ①2013年度各団体のスケジュール等情報交換 2013年6月5日
- ②大阪ボランティア協会新拠点「CANVAS 谷町」への視察、意見交換 2013年8月28日
- ③団体が活動を広げるために最適な法人格の選び方 2013年11月6日
- ④組織のデータベースの管理と職員のネットワークの共有について 2014年3月25日

## 7 認定取得のための取り組み

2011年6月、「新寄付税制」と「NPO法改正」により、寄付者のメリットが拡充・NPO法人が認定を取りやすくなった。しかしながら滋賀県では制度の普及もまた認定取得への意志もあまり見られず、全国的に見て認定NPO法人が0であるのは残すところ数県のみとなった。このような中、今後のしがNPOセンターの事業展開も鑑み、ともに認定取得に取り組むNPOを巻き込みながら「しがNPOセンターが認定取得を目指す」を掲げた。

「ともに認定取得に取り組む」の一環として、認定についての知識を得るためではなく、具体的な申請についてのワークも取り入れ、連続5回講座の「認定取得講座」(前出)を実施した。

しがNPOセンターは2013年7月に、滋賀県宛認証申請にかかる書類を提出した。7月末、連続講座実施の中ヒアリングが行われ、9月16日に認定の通知があった。

## 8 会議等の開催

### (1) 総会

2013年5月25日(火)

### (2) 理事会

第7回 2013年5月21日(火)

第8回 2013年7月1日(火)

第9回 2013年9月10日(火)

第10回 2013年11月18日(火)

第11回 2014年3月14日(金)

\* 新年理事合宿 2014年1月4日(土)~5日(日)